

平成23年度 学内研究助成金 研究報告書

研究種目	<input type="checkbox"/> 奨励研究助成金	<input type="checkbox"/> 研究成果刊行助成金
	<input checked="" type="checkbox"/> 21世紀研究開発奨励金 (共同研究助成金)	<input type="checkbox"/> 21世紀教育開発奨励金 (教育推進研究助成金)
研究課題名	新しい医療環境－Hospital amenity の研究開発	
研究者所属・氏名	研究代表者：文芸学部芸術学科教授 井面信行 共同研究者：文芸学部芸術学科准教授 岡本清文、准教授 安 ^{あん} 起 ^き 瑩 ^{おん} 、 教授 本村元造、准教授 盛 加代子、文学科教授 佐藤秀明、 医学部准教授 三井良之	

1. 研究目的・内容

総合大学ならではの利点を活かして、医学部と文芸学部が連携し、「新しい医療環境」とは一体どういふものかを具体性のあるプログラムとして共同開発する。
 “医療の場における芸術の可能性”という視点から共同研究を行ない、**Hospital amenity** をキーワードに、“良好な医療環境”を追求する。
 同時にアート側から見ても、専門領域に閉塞しがちな状況を打破し、芸術が社会に与える影響力を追求することで、人間にとっての必然性を検証する絶好の機会となり、両学部にとって双方向性のある共同研究となる。

2. 研究経過及び成果

環境を、**空間・時間・人**という3つの要素に分け、それぞれのカテゴリ別に具体的なプログラムを3カ年計画で設定し、その2年目として、計画に従ってプロジェクトベースで実施を行った。
 以下は、今期に実施、施行、検討した項目のおもなものである。

A. 空間

1. ホスピタルアート1（院内展覧会） 造形芸術の4回生作品を中心に、ロビー、中庭、通路、PET棟などのスペースに展示。
2. ホスピタルアート2（院内展覧会）「百花繚乱展」－近大芸術学科学生＋韓国啓明大学学生＋小児入院患者、病院職員がそれぞれに描いた花の絵を計100枚廊下に展示。
3. ホスピタルアート3（院内展覧会）近大芸術学科とアメリカ UARTS 共同ワークショップとして、4作品を1階廊下、2階中庭に展示
4. 小児病棟の処置室のインテリア改修。前年度竣工予定が延期され、今期9月に完成。内装から照明、家具、グラフィックデザイン、備品選定に至るまで刷新。チャイルドライフスペシャリストを中心とした小児科スタッフと共同作業で小児側からの恐怖緩和の視点でデザインを行った。

B. 時間

1. ベッドサイドユニバーシティの第二弾として、6月に舞台芸術専攻の林公子准教授による「歌舞伎のルーツ」という演題で入院患者を中心とした院内講座を開いた。
2. 舞台芸術専攻ドラマ・コミュニケーションの学生による演劇公演。（昨年はインフルエンザ流行により中止となった）2階のメイン待合ホールを特設会場とし、入院患者や家族を中心に舞台劇を行なった。

C. 人

1. 上記演劇公演において、学生達演者自身が、演じる環境を理解する目的で事前ワークショップを行なった。医学部三井准教授による基調講座や検査技師、薬剤師、医事課等様々な分野の業務を説明し、院内ツアーの後フリーディスカッションを行なった。

2年目に入り、院内展示や Web 講座など、ある程度ノウハウが構築され、引き続き多様なプログラムを実施した。小児処置室に関しては、病院内での先駆的、実験的試みとして大きな環境提案に繋がった。ただ、院内において患者への十分な情報通達できていなかった部分もあり、次の目標としては、院内コミュニケーション改善があげられる。その一貫としてサイン計画のデザインも課題である。

3. 本研究と関連した今後の研究計画

最終的な研究成果まとめにあたって、このような環境計画研究の評価分析にあたり、客観性をもつ評価軸や分析方法の構築が必要となる。

例えば官能検査や価値工学の視点での第三者評価視点も取り入れたい。

4. 成果の発表等

発表機関名	種類(著書・雑誌・口頭)	発表年月日(予定を含む)
日本建築学会	学会および会報誌	2013年度
近畿大学医学学会	発表	2013年度